メルマガ１２月（５０号）　＜寄稿＞

ドイツ人にとって「クラブ」とは何か

はじめに

「たった一週間で何がわかる!?」出発前日、当法人理事に挨拶をした際に、返ってきた言葉である。少なからず自身も感じていたことだっただけに、限られた時間の中で、改めて様々な事を貪欲に持ち帰る事を決意した言葉であった。

クラブ設立８年目、将来的な運営スタイルを模索する中で「海外のクラブも見てみたい」と強く思っていた時期に、巡って来た今回のドイツ研修。参加に際し「３人に１人が、地域のクラブに所属している」というドイツの現状と、ドイツ人にとって「クラブ」とは何なのか？　それを肌で感じることを自身のテーマとし、団員 14 名と共にドイツへと向かった。

時代の変化と共に、クラブ自身の変化も必要

ドイツでは、ライン・ノイス郡スポーツ課のアクセルベッカー氏が全行程に帯同され、クラブに関する歴史や現状についてのお話を頂いた。現在、ドイツでは少子化、子どものスポーツ離れ、社会全体のグローバル化といった様々な問題が急速に進み、クラブの在り方も変化してきていると云う。都心部ではフィットネスクラブも進出してきており、人々のスポーツへの関わり方も大きく変化している。クラブが生き残って行くために『時代の変化と共に、クラブ自身が変化してゆく』ことの大切さを感じた。

続けて同郡の“管轄下”である市へ移動。市のスポーツ課長の方よりスポーツ振興施策について話を伺った。郡、市、両者の行政担当者が共通の認識の元、スポーツ振興は行われていることを実感すると同時に、日本との制度的な違いにより全てが当てはまる事ではなかったが、何よりもクラブの必要性について、同じ温度で語っていた姿が印象に残った。

「やりやいことが、もっと楽しめるように」努力する

実際に訪問したクラブは、シニア世代のクラブ。多世代のサッカークラブを柱としたクラブ。体操クラブを柱に、サッカー、陸上のクラブ。製薬会社“BAYER”がサポートする世界トップレベルのフェンシング、陸上、ハンドボールチーム等を所有しているクラブの４か所。歴史は 100 年以上、会員数 500 名～2500 名とドイツでも大規模なクラブ。それぞれ施設を所有しており、ドイツの風景も含め見るもの全てが“羨ましい”と感じた。

しかし話を聞くにつれ、クラブ自身の努力によって徐々に整えてきたものであることを知る。企業がサポートするクラブでさえ、初めは単なる街のクラブ同士の合併がきっかけだったのだ。もっと規模を大きくしたいと考えた際に、企業にも明確なメリットがある事を示したうえで、協力を依頼したのだと云う。

『やりたいことが、もっと楽しめるように』その単純な要望に対し、クラブとして努力する。必要とあれば企業・行政にも明確なメリットを提示しながら協力を募る。その繰り返しが、今の姿なのである。

もちろん現在でも行政、企業との連携を図りながら、自分のクラブに誇りを持って、次の世代にクラブを渡す努力を続けている姿は、実際にクラブマネジャーの方々と会って話を伺うことによって、垣間見ることが出来た。

ドイツ人にとって、クラブは単にスポーツを楽しむだけの場ではなく、地域の中での課題解決を行うなど、日本のクラブとは担う役割の広さが全く異なり、日本の自治会組織に役割が似ていることに、訪れたそれぞれのクラブで歓待を受けながら気付かされた。

「なくてはならないもの」としての存在に成り得るか

今後日本の中に、本当の意味でクラブが根付くためは、スポーツの場を提供するだけでなく、地位の抱える様々な課題解決に取り組むことにより、出来るだけ多くの人にとって『なくてはならないもの』としての存在に成り得るかに掛っていると思う。

今回の研修を通じ、ドイツでさえクラブ運営に関し、大きな時代の変革期に来ており、新たな運営方法を常に模索している事を知った。改めて日本でも、独自のクラブ運営方法の必要性を強く感じる。

「我々は日本からの研修団を多く迎え入れている。でもそこで持ち帰った情報が、日本でどのように活かされているのかが、伝わって来ないことが残念である」と。最後に訪問したクラブ、バイヤードルマーゲン・クラブマネジャーのアクセルベルツ氏の言葉が私の心に強く残った。

（亀野陽太郎　NPO 法人ニッポンランナーズ クラブマネジャー）

＜ドイツ研修について＞

財団法人日本体育協会クラブマネジメント指導者海外研修事業を今年度より toto 助成事業として実施。全国より集まった 15 名の団員を 10/27～11/2 の期間でドイツ連邦共和国　ノルトライン・ヴェストファーレン州ライン・ノイス郡　グレーベンブロイヒ市へ派遣し、現地での地域スポーツクラブに関する講義・クラブ視察による研修を行った。

ドイツ連邦共和国

ノルトライン・ヴェストファーレン州

グレーベンブロイヒ市（Grevenbroich）

訪問した「Turnverein Orken」の設立当時の写真

出発前の結団式にて

【NPO 法人ニッポンランナーズ・プロフィール】

1．設立

年月：平成 15 年 4 月

経緯：実業団チーム『リクルート・ランニングクラブ』の休部を受けて、一つの企業だけの力に頼らない新たなスポーツ環境の構築を目指し、千葉県佐倉市を拠点に、「生涯スポーツと競技スポーツとの融合」と「スポーツ文化の確立」をビジョンとして掲げ、地域に根差した活動をスタート。現在設立 8 年目。

2．地域　千葉県佐倉市・八街市

地区人口：約 17 万 8000 人（佐倉市）、約 7 万 7000 人（八街市）

地域特：都心から約 50km。江戸時代後期に築城された佐倉城を中心にして栄えた城下町。多くの歴史や文化遺産が点在する。また印旛沼に代表されるように自然環境にも恵まれている。

佐倉市出身のスポーツ選手：小出義雄氏、長嶋茂雄氏

3．クラブ

会員数：544（H21.12 月現在）

特徴：『ランニング』部門を中心に、『バレーボール』部門、小学生の年代に対し、年間を通じて様々な運動プログラムを提供する『土曜スポーツ探検隊』部門、ストレッチや、ウォーキングといった基本的な運動機能の維持向上を目指す『ステイヤング』部門、明確な目標を持って競技に取り組む『アスリート』部門を展開。年代、目的に応じた各種プログラムの提供を行っている。将来的には、地域企業、行政を巻き込み、地域全体で高いレベルの競技選手を輩出することを目標としている。

予算規模：3,000 万円

4．連絡先・事務局

〒285-0014　佐倉市栄町 21-8　倉田ビル 302

ＴＥＬ　043-481-0711　ＦＡＸ　043-481-0717

ＵＲＬ：http://www.nipponrunners.or.jp

Email：　kameno@nipponrunners.or.jp